The Heart is continued

今も受け継がれる紀州のココロ

歴史や伝統は、時間の止まった過去のものではない。受け継ぐ者がある限り、進化や成長を行い、輝き続ける未来へのレガシーである。

Heart Stories 01

祝！世界遺産追加登録

2016年10月24日、ユネスコ本部（フランス・パリ）で開催された世界遺産委員会において、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の追加登録が決定された。

熊野三山の別宮的存在である田辺市の闘雞神社。当社を詣で、三山を遥拝して引き返す人々もいたという。

今回追加登録されたのは田辺市の闘雞神社をはじめ、未登録だった熊野参詣道大辺路、中辺路の一部や、高野参詣道の黒河道など県内の22地点。40・1キロ増加し、総延長347・7キロとなった。これに伴い橋本市や上富田町、串本町が新しく資産保有市町に加わった。

12年前の世界遺産登録時には、経路が不明であったり、保全状態が不十分だという理由から、提案しなかったところもあった。その後、地元有志と県、関係市町が協力し研究や調査を行い、ルートの特定や環境の保全体制が整ったことなどが、今回の追加登録につながった要因となっている。

女人禁制である高野山内に立ち入ることのできなかった女性が辿った女人道（にょにんみち）。

世界遺産は登録されて終わりではない。適切な保全と活用から、新たな歴史が始まる。価値を受け継ぎ守る人々がいるからこそ、素晴らしい宝として後世へと残っていくのである。

県庁正門横に掲示されている追加登録決定の看板。多くの人々の情熱が追加登録へと導いた。

［追加登録地図］

Heart Stories 02

受け継がれるDNA。リオでゴールド！

田中3きょうだいに伝わる歴史あり

リオデジャネイロ五輪、体操男子団体はアテネ五輪以来3大会ぶりの金メダルを獲得した。なかでも平行棒における田中佑典選手の活躍は記憶に新しい。佑典選手といえば、兄の和仁氏、姉の理恵氏と共に3きょうだいでロンドン五輪代表入りを果たした体操一家の末っ子。父田中章二氏は現在も和歌山市内で子どもたちに体操を指導する有名なコーチだが、その章二氏を指導したのが、前回の東京五輪で金メダルを獲得した和歌山県田辺市出身の早田卓次氏。その活躍とスポーツ水準の向上や振興に対する功績をたたえ田中佑典選手と早田氏には〝県スポーツ栄誉賞〟、田中3きょうだいには〝知事特別表彰〟が贈られた。

前列右から2番目が早田氏。左端から順に和仁氏、理恵氏、佑典選手。後列左お二人が田中きょうだいのご両親。

Heart Stories 03

日本を代表する博物学者〝クマグス〟がよみがえる

知られざる南方熊楠の新しい一面。そしてその偉業はいつまでも伝えなければならない。

和歌山市で生まれ、世界で活躍し、田辺市で没した南方熊楠。日本を代表する博物学者であり民俗学者。また菌類の研究では、ミナカテルラ・ロンギフィラと呼ばれる粘菌など多くの新種を発見するなどその足跡は輝かしい。

子供の頃から、驚異的な記憶力を持ち、一読しただけで家に戻り、記憶から本を書写するなど、常軌を逸した天才であったといわれる。現在の東京大学に進学するも、卒業を待たずして渡米。さらにはイギリスに渡り大英博物館で働きながら多くの論文を著し、科学雑誌「ネイチャー」にも何度も論文を寄稿した。また語学にも長け、10数ヶ国語ともいわれる言語を理解したといわれている。

さらに日本に〝エコロジー〟という理念を紹介したといわれ、和歌山においても環境保護の為に様々な活動をしたことや、民俗学の研究においても〝日本人の可能性の極限〟といわれている。来年は熊楠生誕150年。これを記念し、その業績を改めて称えることを目的に南方熊楠記念館の新館が3月にオープン予定となっている。

［南方熊楠記念館］

ユニバーサルデザインに配慮し、従来の展示物だけでなく新たな展示物を加え、映像展示を導入した新館が2017年3月にオープン（予定）。展示室は、熊楠が守りフィールドとした「熊野の森」をイメージ。時代順の資料展示に留まらず、南方熊楠への理解を深めていただく為の「エピソード展示」や、多様な視点から「人間・南方熊楠」を紹介することを試みている。また番所山からの眺望を活かし、絶景を望むことができる休憩スペースを設け、熊楠と和歌山のつながりを感じさせる環境としている。

展示室2階は有料。近年の熊楠研究を反映させ、熊楠像を正しく伝えることに注力した展示となっている。

住所／西牟婁郡白浜町3601-1
電話／0739-42-2872

新館エントランス付近。1階は番所山のビジターセンターの役割をはたす。

若き頃の南方熊楠。

Heart Stories 04

伝えたい忘れ得ぬ想い

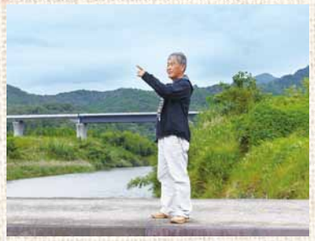
忘れられない、忘れてはならない。そして、上を向いて歩いて行く。

2011年、和歌山県南部を中心に豪雨をもたらした台風第12号による紀伊半島大水害。多数の河川の氾濫や土砂崩れにより死者56名、行方不明者5名、県内道路703箇所が被災し、180箇所で通行止めになるなどその被害は甚大であった。熊野川も氾濫し、農業用機械は流され、耕作地にも大きなダメージを与えた。

「被害が余りにも大きすぎ、耕作放棄せざるを得ない農家もありました。しかし俯いてばかりもいられません。それらの農地を、花畑として再生。県や市、そして地元の商工会や企業の方々と協力して新たな観光資源として育てたいと活動しています」と語るのは、新宮市の熊野川地域フラワーツーリズム推進協議会の下阪殖保会長。

面積にして5ha以上。今年は去年の倍となる40万本のひまわりが咲き、人々の心に明るさをもたらしていた。「災害から今年で5年。多くの若い仲間も増えました。これからも多くの人の心に元気を与えられるような活動を続けられれば」と、夢を語っていた。

一斉に満開となったひまわり。黄色と緑、そして青空のコントラストは見る者を元気にする。ゆくゆくは、菜の花やコスモスも植え、季節ごとに花を観光客に楽しんでもらえるようにしたいとのこと。



最高水位は16mを超え、熊野川行政局の庁舎3階近くまで浸水したという。「あの山の中腹にある家まで水に浸かったんです」と下阪会長。